

# 学校関係者評価報告書

学校法人名古屋大原学園  
大原法律公務員専門学校津校  
学校関係者評価委員会

令和2年3月に実施しました、自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下10項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

## 1. 教育理念・目標

### 【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。

### 【今後の改善方策】

今後も各職員が学校の「教育理念・目的・育成人材像」をしっかりと認識した上で、社会経済のニーズ等を踏まえた将来構想を立てることが必要である。

学生の公務員としての職業意識を高めるため、社会貢献意識を育てるボランティア活動に参加しやすくするきっかけとして、学生は「津まつり」ボランティアに参加し、また昨年に引き続き「地域の防災訓練」ボランティアなど自治会活動も紹介し、ボランティア参加のきっかけを増やしていく取り組みを強化する。

### 【関係者評価】

職員朝礼など通じ定期的に学園の教育理念を確認することで、教育理念の共有をはかっている点は評価できる。さらに公務員試験で必要となる専門知識の習得だけでなく、広く社会から必要とされる人材の育成を目指す早期大人化教育も評価できる。

毎年、学校長が入学式において保護者に向け学園の基本理念や教育目標、教育内容を説明しているようだが、今年度は感染症の関係で入学式が行われていないとのことなので、別の手段でそれらを保護者に伝える手段を検討していただきたい。

保護者とのSNSを利用した連絡体制の構築を進めているようだが、ぜひ進めていただきたい。

## 2. 学校運営

### 【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価である。

⑧「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について、新しい学生管理システムが導入され書類の作成や発行について効率化を図られたが、業務で利用するグループウェアの活用のレベルをさらに上げる。

### 【今後の改善方策】

⑧について、今年度、さらに職員への浸透をより図るため、学生管理システムや Office365 の各機能を実際に活用しながらレベルアップを図り、活用方法についてのディスカッションを行う。

また、学校のホームページやツイッターで個人情報を掲載する場合、今後も細心の注意を払い掲載していく。

### 【関係者評価】

職員に対し個人情報法の取扱いについて注意喚起するとともに、個人情報保護法にもとづき個人情報保護規則を整備し適正に運用している点は評価できる。さらに職員の能力向上を図るため、学校長により面談や授業聴講、資格取得の奨励を継続されている点も評価できる。今般の感染症拡大に伴い、今まで以上に ICT などを利用した教育方法の開発が求められている。現在も office365 などクラウドサービスを利用した教育の提供を行っているようだが、より一層 ICT を活用できるようソフト、ハードの充実を検討していただきたい。

## 3. 教育活動

### 【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価である。公務員という職業柄、業界との連携は難しい部分もあるが、さらに工夫はできると思われる。

⑫「関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するマネジメントが行われているか」について、関連分野の業界である役所との産学連携が難しいが、関連業界との連携に限らず、優れた教員確保をすることが引き続き課題である。⑬「関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組み」について、関連分野の業界団体である市役所・警察本部・自衛隊等の外部関係者から知識を習得したり、職員自身が時代に対応した知識を取得していくことが課題である。

### 【今後の改善方策】

⑦について、今年度も職員の講義力の向上が図れるよう、「知的好奇心をくすぐる授業であるか」「学生が理解できる授業であるか」「満足感の得られる授業であるか」を評価項目にして引き続き授業評価を実施していく。⑫について、学生が将来、就職先と考える公務員に、関連分野の実践的な職業教育をしていただけるよう、NPO 法人の外部関係者による授業や県庁・市役所・消防署・自衛隊・NPO 法人等外部関係者にも授業をしていただける機会を増やしていく。⑬について、関連分野の業界団体である市役所・警察本部・自衛隊等の外部関係者の説明会に参加し知識を習得したり、時代に対応した業務力や指導力をつけるため、職員自身が時代に対応した資格取得を推進していく。

### 【関係者評価】

シラバスを作成し、計画的に授業が展開されていることは評価できる。公務員の分野ではインターンシップなど企業実習の実施が難しいようだが、社会能力を身に付ける観点から、多様な社会の業務を理解することを目的に、公務員にこだわらず一般企業が実施する企業実習への参加を促すことを検討してはどうか。

## 4. 学修成果

### 【課題】

全体として「不適切・やや不適切」の指摘もなく改善している。

③「退学率の低減が図られているか」について、クラス担任や授業担当者が悩みを持つ学生と面接等を通じて接する機会を増やしていくことが引き続き必要である。④「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」について、今後も卒業生の動向を把握していくことが必要である。

### 【今後の改善方策】

③については、クラス担任や授業担当者が学生個々の状況を把握し、悩みや進路について可能な限り面談を実施。また7～8月期に、希望する学生について、クラス担任・保護者・学生の三者面談も実施する。今後も継続して、退学者の低減を図っていく。④「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」について、卒業生の就職状況を専門課程総合案内書や学校の掲示版に掲載し、学生や入学希望者へ進路選択情報として提供していく。また、役所に勤務した卒業生を学校に招き、役所の様子や仕事のやりがいを話してもらう機会を設けたり、官公庁の人事担当から機会があるごとに卒業生の状況を把握したりする。さらに卒業生に対しての最適なアンケート実施方法を検討していく。

### 【関係者評価】

卒業生の社会的な活躍を把握するために、今後も組織的な同窓会の実施や、SNSを活用した卒業生の状況把握方法の構築を検討していただきたい。

## 5. 学生支援

### 【課題】

全体として「不適切・やや不適切」の指摘もなく改善している。

④「学生の健康管理を担う組織体制」について、今後も遅刻日数や欠席日数が規定数を超えた学生や自宅外通学している学生には、クラス担任から保護者や学生に連絡相談を今後も継続していく必要がある。⑤「課外活動に対する支援体制の整備」については、学生が本気モードで楽しむ「キャンパスライフ」が送れるように、学生同士が交流できる課外活動の実施を推進していく必要がある。⑧「卒業生への支援体制」について、卒業生が学校を身近に感じてもらえるよう工夫していく必要がある。

### 【今後の改善方策】

④について、遅刻日数や欠席日数が規定数を超えた学生や自宅外通学している学生には、学校長以下全員の職員が面談・相談できる機会を増やしていく。⑤について、今年度も、通常のクラスとは別の学科や学年を超えた交流の場として、課外活動としてバレーボール大会などを実施するとともに、トレーニングルームの有効活用を模索していく。⑧について、卒業生が学校で勉強する機会を増やすため、卒業生の附帯教育の講座割引制度をさらに周知していく。

### 【関係者評価】

高等教育の無償化、給付型奨学金の対象校となり学生に学びを支援する取り組みをされていることは評価できる。卒業後のキャリア形成を支援するために、現在の行われている社会人課程の割引制度を効果的に卒業生に伝える方法を検討していただきたい。

## 6. 教育環境

### 【課題】

全体として「不適切・やや不適切」の指摘はないが、③についてはさらなるレベルアップを図りたい。

### 【今後の改善方策】

②の学内外での実習・インターンシップ等の教育体制について、今年度も税務職員志望の学生に津税務署職場体験を兼ねたアルバイト、自衛隊志望の学生に自衛隊生活体験や基地見学、警察官志望の学生に三重県警察本部の「若樞サポーター」への参加を継続していく。また、③の防災に対する体制について、防災マニュアルを見直し、より万全の防災体制を整えるとともに、学内防災訓練の実施を進めていく。

### 【関係者評価】

トレーニングルームやPC実習室、ロビーの整備など教育環境の維持管理に力を入れている点は評価できる。今後は不測の災害に対し学生の安全を確保するため、防災体制の構築や防災マニュアルの見直しに取り組んでいただきたい。

## 7. 学生の受入れ募集

### 【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。引き続き適正な募集活動を行っていくが、今後は学生への経済的負担軽減措置が重要な課題となる。

### 【今後の改善方策】

今後は学生への経済的負担軽減措置の充実を図っていく。高等教育の就学支援制度の認定校として認可をうけたことにより更に支援体制が整った。しかし、様々な手続きが複雑であるため事務処理をスムーズに進めることができるようスタッフの充実を図る。

### 【関係者評価】

高等教育の修学支援新制度の事務手続きが煩雑とのことだが、経済的に苦しい学生を受け入れる重要な制度となる。そこで、今後も事務手続きの改善と事務スタッフの人数を確保し、制度を継続していただきたい。

## 8. 財務

### 【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の割合は、昨年度の自己点検と同じ100%である。  
専門課程入学者は一定数おり、学校の財務基盤は安定している。

### 【今後の改善方策】

全項目「適切・ほぼ適切」の評価となっているが、中長期的な学校の財務基盤安定のため、学生募集人数増加を図る必要があり、高校訪問はじめ積極的な募集活動を今後も実施していく。また、経費削減のために、消耗品等在庫管理を徹底していく。

### 【関係者評価】

昨年度同様、財務は安定しており情報公開も適切に行われているため、この状態を継続してもらおうとともに、更なる財務安定を目指し経費削減に取り組んでいただきたい。

## 9. 法令等の遵守

### 【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価となり、昨年度の自己点検と同じ 100%である。

### 【今後の改善方策】

全項目「適切・ほぼ適切」の評価となっているが、④について、今後も自己点検・自己評価を継続的に実施し、年3回、学期末に開催される職員会議で各職員共有しさらなる改善をしていく。

### 【関係者評価】

認可事業である以上、学校設置基準など今後も厳格に守る努力を継続していただきたい。併せて、教育事業の継続性に関わる重大なコンプライアンス違反が起きないように、職員だけでなく学生にも啓発教育を行うよう検討していただきたい。

## 10. 社会貢献・地域貢献

### 【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。

### 【今後の改善方策】

①について、今後も地域住民の学校施設を利用した町内会の開催など、地域貢献の機会を増やしていく。また、地域の住民の災害時における校舎利用が考えられるため、防災計画と合わせ、できる範囲内での協力を行っていく。②について学校の所在する街の住民の高齢化が進み、地域住民の方々が災害時の避難・救助に危機感を感じているので、今後も学生が地域の防災訓練にボランティアとして参加できるよう継続して紹介していく。

### 【関係者評価】

教室の貸し出しや、学生へのボランティア活動推奨を通じて地域に貢献する姿勢は評価できる。公務員を目指す学校の学生に「公共に奉仕する精神」を育む活動を継続していただきたい。

毎年実施している、自治会による防災活動に当日参加するだけでなく、今後は計画や運営にも関わることを検討していただきたい。

### 学校関係者評価委員会

役職	氏名	現職
委員長	中嶋 年規	三重県議会議員
委員	新山 英治	元 高宮小学校校長、大谷町自治会長
委員	瀬瀬 智英	株式会社伝七ステーション 代表取締役（卒業生）